

A編の「まとめ」

数値データによる岐阜大学附属図書館の現状を見て、得られる事項を箇条書きすると次のようである。

第1章 図書館資料：

- (1) 蔵書数はB大学とC大学の間で、標準的であるが、学位論文は多く(1,619冊)、科研費報告書(265冊)も充実されつつあるが、電子ジャーナルはない(1.1節)。
- (2) 図書受入数(約2万冊)の分野別では、自然科学系がB大学より多く、人文社会系がC大学より多く標準的である(1.2節)。
- (3) 雑誌受入数(約4,700種)は、BとC大学の間規模にある(1.3節)。
- (4) 大型コレクションは8種類収容している(ウェブスター英語辞書(原本)など、1.4節)。
- (5) CD-ROM等の二次資料データベースの整備状況は88大学中83大学が何らかの購入を進めていて、岐阜大学でもスタンドアロン型での提供件数が多い(1.5節)。
- (6) 視聴覚資料が少なめである(1.6節)。

第2章 図書館施設：

- (7) 蔵書収容能力が低く、既に書架不足で図書館の容量不足状況にある(2.1節の施設および1.1節の129.7%参照)。
- (8) 本館の入口が2階になっていて、入館に抵抗感がある(2.2節)。
- (9) 電子図書館化へ努力しているが、ネットワーク型はMEDLINEとCA on CDの2タイトル(平成9年度後期より「雑誌記事索引」をネットワーク型に変更)で、スタンドアロン方式は43タイトルに昇る(2.4節)。

第3章 図書館サービス：

- (10) 岐阜大学は外部への公開性は高い(周知されてない懸念があり、広報の必要)(3.1節)。
- (11) 入館者数が少ないが(3.2節)、本館入口横に入館カウントされない新聞・雑誌閲覧コーナーがある(2.2節)。
- (12) 休日開館はないが、開館サービスの努力はしている(3.3節)。
- (13) 館外貸出サービスは良く実施している(3.4(1)節)。
- (14) 貸出図書の分野は自然科学系を中心に多い(3.4(1)付図)。
- (15) 文献複写サービスの学内利用は非常に多い(3.4(2)節)。
- (16) 情報提供サービスは館数平均で見て、B大学並である(3.5(1)節)。
- (17) 本館で実施しているオンライン情報検索件数は減少傾向にあるが、CD-ROM情報検索件数は飛躍的に増加し、特にMEDLINEによる情報検索が多くなっている(3.5(2)節)。
- (18) 図書館間相互利用の図書は貸出(139冊)より借受(224冊)の方が多く、他大学に依存する度合いが高い(3.6(1)節)。
- (19) 図書館間相互利用の文献複写は、受付・依頼ともに多く、雑誌の集中化の効果と思われるが、依頼(10,394件)が受付(8,769件)より多く、研究が盛んであるが資料が少ないとも言えよう(3.6(2)節)。

第4章 図書館経費：

- (20) 総経費に対する資料費の比率は国立大学全体で見ても高い(4.1節)。

- (21)図書館総経費、その他・運営経費とも B と C 大学の間規模である(4.1 節)。
- (22)運営費(図書館委員会)に占める人件費と光熱費が高く、改善策を検討する必要がある(4.2 節)。
運営費の平成 8 年度総額 54,247 千円のうち本省配分予算は約 1 千万円弱で、残りを学内各学部
に負担願っている。電子的情報資料に対する整備に関する方針を研究する必要性がある。
- (23)教官 1 人当たり経費は、図書館総経費が約 551 千円、図書資料費が約 288 千円、運営費(図書
館委員会)は約 71 千円、学生用図書経費は約 13 千円程度である(4.3 節)。
- (24)岐阜大学附属図書館として当面の最大の課題は、緊迫している「本館の増改築であり」、平成
14,15 年頃概算要求すべき「医学部分館の移転」である。
- (25)例年の図書館経費では、「人件費・光熱費の抑制策」、「電子図書館化への指針策定とそのための
経費捻出」、「図書館職員等の研修旅費枠の設定」、等々が課題である(4.5 節)。

第 5 章 図書館職員の構成

- (26)職員数は規模的に少なめである。専任職員数：臨時職員数は 18:11 であるのに対して、国立大
学平均で 24:16 となっている(5.1 節)。臨時職員を採用せざるを得ない大学附属図書館の現状
が分かる。
- (27)平成 11 年度には 18 人から 17 人に削減予定であるが、現時点での職員作業量は極めて厳しく、
同規模大学では最悪の環境にある(5.1 節付表)。
- (28)情報管理課と情報サービス課の 2 課で対応している(5.2 節)。
- (29)事務部における館内委員会では、事務電算化(昭和 51 年～)、資料保存検討(H5.2～H8.3)、
医学部図書館構想検討(H6.9～H7.1, H7.12～H8.3)等々の業務が精力的に遂行されている(5.3
節)。
- (30)図書館職員は「司書」としての業務に限らず、学術情報活動に従事しつつ、また業務能力の研
鑽に努めている(5.4 節)。
- (31)電子図書館化への努力としての「遡及入力」作業は、平成 10 年 11 月現在で 50.9%(漢字とカ
タカナ両方で OPAC 検索可能)、学術情報センターへの登録率は 25.4%の状況にある。今後、約
16 万冊を遡及入力する必要があるが、運営経費(年 100 万円)を継続するとして 5 年計画する
と、更に年 2 万冊増加させ、年約 200 万円の費用を捻出する必要がある。参考データとして、
アンケート調査による全国各大学の状況は本文中に平成 9 年度までの実績を一覧表に整理して提
供した。